

# 圓福寺報

圓福寺報 第五十六号  
 平成二十二年七月十五日発行  
 発行者 臨濟宗妙心寺派 圓福寺  
 千葉市稲毛区六川町三七五 TEL (二五二) 九二八一  
<http://www.chiba-enpukuji.com>  
 E-mail: oshou@chiba-enpukuji.com



妙心寺派管長 又玄窟 河野太通老大師御染筆

「寂然不動」 (じやくねんふどう)

寂然として動かず。易経にある言葉で、無心無為、じっと動かなければ、天の動きを感じることができる。

## 目次

法話「今日の勤めの 田草とるなり」	2
市原別院、武士風土記(その2) 「国分寺台から武士の里へ」	6
熊倉 浩さん	
市原別院だより 「仮本堂？完成間近」	12
六月の土曜会 「白杵石仏と高千穂の旅」	13
二順目第五回 「四国歩き遍路の旅」	14
第六回四国あるき遍路のご案内	16
二月の土曜会 「精進料理教室」	16
第29回花園会ゴルフ大会報告	17
境内墓地のご案内(二区画)	17
平成二十年度花園会会計報告	17
お寺と和尚の日録抄	18
穴川花園幼稚園 園だよりから 「はじめてのおべんとう」	19
地藏盆のご案内	20

# 今日の勤めの 田草とるなり

毎年、幼稚園の健康診断で血糖値が高めですとねと言われ、少しダイエットした方がいいですよと注意されます。基礎代謝が低くなっているのに、若い時と同じような気で食べてしまいがちです。量的には十分なのに、ついつい貪ってしまう。その挙句、メタボの仲間入りです。飼主主に似るとはよく言ったもので、我が家のミニチュアダックスも、その長い胴ゆえ太いハムのような体型になっており、獣医さんに余計なものを食べさせないようにと注意されています。



## ■人に三毒あり

そんな結果を生む「むさぼり」を筆頭に、人間の煩惱をたどえて、仏教では「三毒」といいます。あとの二つは、「いかり」「おろかさ」で、『菩提和讃』の中では、「貪りむさぼり瞋りいかり痴さおろかさ」の煩惱しげき三毒にくらき闇き迷いの日々となる」と説かれています。

人は、この三毒を生まれながらに持っているのかというと、そうではありません。生まれたばかりの子や小さい子を考えると、みると、おっぱいやミルクを欲



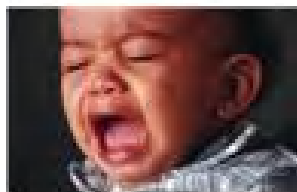
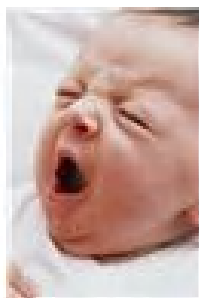
しがるのは生きていくために当然のことですが、必要以上に欲しがることはないはずで、この子はいくらでも飲むからと言って必要以上に与えたことがあるから、次第にもっともつとなつてしまったのです。

おなかがすいたよ一っと、泣くことがあっても、こんなに腹がへってしょうがないのは、親のせいだなどと怒ってみたり、人のせいにして当たり散らすことなど決してありません。

こう見てみると、「三毒」は生まれながらにして持っているのではなく、大きくなるに従って身に付いてしまうものと言えます。そこで、

「幼子のおさなご次第次第に智慧づきて 仏に遠く なるぞ悲しき」という歌もあります。三毒を持つ





は、経済難や政情不安などでした。改めて世界には様々な国があり、さまざまな人種・さまざまな言語があることに気付かされました。世界中のどんな国で、どんな人種に生まれようとも、貪りも瞋りもそして愚痴のような痴さを持たない幼子こそが三毒を離れた仏さんの姿にほかなりません。

昭和の名僧と言われた山田無文老師がよくおっしゃいました、「赤子のようなのは、赤で・・・。」というのは、赤ちゃんのような純真無垢なところでという意味と同時に、仏さんのこのころで、ということだと気付かされます。

三毒に毒されていない赤ちゃん



んの時代を誰もが必ず経てきています、そうだったかなと記憶を探しても探し当てることは無理ですが、考えてみれば必ずそういうのです。ということは、私たちの誰もが仏さんの時代があったと、残念ながらあったという過去形でしか言えないのは悲しいのですが、あったのです。

でも、今からでも遅くはないと、菩提和讃では「尚ぶらくは人間の、受くる形はそのままに、仏の姿にかわらねば…」と、今の姿のまままで仏さんのところになればいいじゃないかと言います。

## ■この秋は雨か嵐か

市原別院用地の広い原っぱの草刈りをしながら思うことがありますが、こんなところ一生懸命草刈りをしてどうする、きれいにしたからといって別院の本堂が建つわけでもないという先が見えない仕事に対して、今度幼稚園の子どもたちが来てお弁当を広げやすいようにとか、寝転がって遊んだらいいだろうとかの理由を考えているのです。

しかし、ある時、気がつきました。市原別院の下の田んぼに、腰の曲がったおばあさんが来ては刈り払い機で畔や土手の



市原別院用地の原っぱで遊ぶ園児たち

草刈りをしているのです。雨が降ったからやめようと思ってエンジンを止めると、下の田んぼから2サイクルのエンジン音が響いて来て、あのおばあさん、まだ頑張ってるなとわかります。こんな雨の時に、滑りそうな足場の悪いところを合羽来てまで草刈りしなくたっていいだろうに・・・と思いつつ、私もエンジンを再始動。

再び草刈りをしながら思いだした歌がありました。



この秋は  
雨か嵐か知らねども  
今日の勤めの  
田草とるなり

二宮尊徳の歌です。  
最近では、各地で集中豪雨が

あったりして、これも温暖化の影響らしいですが、秋の収穫期の天気もどうなることか。長雨だったたり台風が来て米がとれないこともあるかもしれないけれど、まずは目の前の田の草を取らないといけない、それが自分の勤めだから、というのが歌の意味でしょう。逆に考えれば、雨になるか嵐になるかわからないんだから、そんなに一生懸命やらなくたっていいじゃないかとなるのですが、これこそが愚痴、痴さではありませんか。先のことばかりに目をやり、気をもんでみたりして、どうせ○○だからと愚痴ってしまふ愚かさや払拭してくる歌を、下の田んぼのおばあさんが思い出させてくれました。



## ■人生、田草とり

年取ったらポケたくないなあ、ガンはいやだなあ、寝たきりになりたいくないなあなど、誰もが思います。誰だって思うのですが、そればかり言っていたら、それは貪りになっていないでしょうか。愚痴になってきたいのが、

この秋は  
雨か嵐か知らねども  
今日の勤めの  
田草とるなり

という歌です。  
田草取りのように、自分自身の今日の勤めを一生懸命やっつけよう、むさぼり いかり おろかさ「貪り瞋り痴さ」の三毒に毒されずに、仏さんのところで過ごすことができそうではありませんか。

既にご案内の通り、圓福寺市原別院計画のもと、種々活動を進めてきております。その一環として、別院予定地周辺の地誌をご紹介します。郷土千葉を知るきっかけにもなります。執筆・写真は、以前「穴川風土記」をまとめてくださった熊倉浩さんです。現地踏査、歴史資料を基にした綿密な内容になっており、ご労苦に感謝申し上げます。



## 国分寺台から武士の里へ

～上総国市原郡の中心地をゆく～  
(寺報五十四号のつづき)

### ◇東日本最古の古墳・西広貝塚さいひろ

#### 前廣神社さきひろ

(市原の)国分寺まで来たからにはどうしても寄りたいたいところがある。お寺から南300mに

神門古墳群(県指定史跡)がある。三世紀中期、三代にわたる首長墓である。弥生時代の墳墓から前方後円墳に移行する時期の重要な古墳群で東日本最古である。こんな早い時期に中央から遠く離れた東国上総国にこのような古墳のあふることには驚嘆する外はない。大いに興



東日本最古の神門五号墳

味が沸くところである。未だ前方後円墳が定型化する前の様子が見て取れる。

西に隣接して大池があり池岸こうとがようあと

に神門瓦窯跡がある。古墳から反対側の東には住宅に囲まれて南田瓦窯跡(国指定史跡)がある。国分寺や尼寺の瓦を焼いた窯跡でありともに見学したいところだ。

右手南に下る。この台地が尽きるあたり養老川と広い田園がよく望めるところに諏訪神社があり諏訪台古墳群である。境内に二基の円墳が見られる。続く一帯は諏訪台遺跡であるが今や道路で潰され家々の下に埋もれてしまった。

大多喜街道(R297)に向かう。山倉丁字路の手前右に下った所が『日本三代実録』にも記載のある西広の古社・前廣神社である。長く高い石段を上ると神社は南面してここからの展望

西広の古社・前廣神社



もいい。上総国の延喜式々内社は五社を数えるが市原郡には一社も存在しない。その代り？式内に社に準ず

る格式の神社が四社もある。(専門家は式外旧社と呼んでいる。国史現在社とも) 因みに前廣神社、神代神社、高滝神社とこれから訪ねる建市神社である。

神社の周囲一帯は縄文の「

西広貝塚さいひろ」である。昭和十二年(1937)から調査が進められ本格的には戦後の発掘となる。かなり住宅が密集してきたが近年まで延々と長期にわたる調査が続けられた。大型であるばかりでなく全国的にも類のない貝塚とわかった。埋葬人骨50体以上、

獣骨のほか夥しい土器・土偶が出土された。調査が完了し平成二十年三月(2008)には大発表会と展示会が行なわれた。事実上消滅してしま



西広貝塚出土土器

まい標柱も看板もないので住人も知らない。指定のない遺跡とはいえ何らかの標識ぐらい欲しいものである。唯一神社境内にその痕跡が認められるだけである。関係資料は埋文調査センターで見ることができ

話は戻るが、市原条里制遺跡を横断する古道は、阿須波神社からほぼ大多喜街道に沿って南下する。市原小学校入口から山田橋を経て山倉ダムの脇を通り山倉丁字路まで古道跡が見つかっている。昔、国府を通る東海道だったのだろうか。或いは相模から武蔵を経由する陸路の東海道が出来たので下総の国府

から南下して安房国へ向かう官道だったのかなど思ったりもした。

◇山倉古墳群と埴輪

神社から大多喜街道にでた坂の途中にはかつて外房直送の鮮魚直売店があった。ちょうど西広貝塚の裏にあたるそこは後に埴輪で超有名になる「山倉古墳群」である。古墳時代前期から後期にわたって築造された古墳群で正しくは「あった」というべきである。

地域開発のため区画整理事業によって惜しくも総てが削平されてしまった。

鮮魚直売店はラーメン屋になっ



山倉古墳群一号墳出土の人物埴輪

財・市原文化財センター調査報告書第53集「市原市山倉古墳群」二〇〇四より

街が変わっていくのを開店十年という山倉坂下の鮭屋の女将が嘆いていた。

山倉古墳群は1974～1975年に「国分寺台遺跡調査団」によって発掘調査がなされ、翌年公表されるや斯界に大変な話題を呼んだのを覚えている。調査の成果は埋文調査センターに引き継がれ今日に至っている。古墳群の立地は、国分寺台地の突端から南側の沖積地を見下ろすところ標高は45mほどであろうか。現在は住宅で一杯である。

6基の古墳からなるのだがR297の対向にある山倉ダム側の古墳群と一体をなすもののようにある。古墳は消滅してしまったが調査結果はさきの遺跡調査団によって記録に残され、また近年詳細な報告書が出版され在りし日の古墳の全貌に接することができる。

この古墳群が古代史学界にセンセーショナルな影響を与えてきた理由は二つあると思われる

る。ほぼ完全な形でかつ多量の人物埴輪じんぶつはにわと形象埴輪けいしょうはにわが出土したこととその後の研究で埴輪の生産地が特定されたことである。

埴輪は市内能満の埋文調査センターでレプリカであるが見学できる。また佐倉の国立歴史民俗博物館には実物が展示されている。

遺体が葬られた横穴式石室の

石材は穿孔性貝の痕がある「磯石」いしゅういしいわゆる「房州石」ぼうしゅういしが用いられている。

房総半島は良質の石材には恵まれない土地柄なので磯石が好んで用いられているようだ。富津市の内裏塚古墳群中最大の「



山倉古墳群一号墳出土の円筒埴輪

財・市原文化財センター調査報告書第88巻  
「市原市山倉古墳群」二〇〇四より

だいらづか

内裏塚古墳」(前方後円墳・国指定史跡)は墳頂に記念碑がありその台石に「房州石」が使われている。もとは掘り起こされた石室だったという。同古墳群の「九条塚古墳」の墳頂部にも露出して石室の一部がありそれも「房州石」のようである。

発掘以来三十余年。その間埴輪はどこで作られたかが論じられてきた。これほどの埴輪であるからには近くに埴輪窯跡があるはずだが今日に至るも発見されていない。この地で焼成されたのではないと言われてきたが、埼玉県鴻巣市「生出塚遺跡」の埴輪窯で作られ遠地運ばれてきたということがわかった。

さらに円筒埴輪の形状別分類から「刷毛目」はけめの識別研究によって埴輪工人(製作者)も特定された。無理とは知りつつ工人の個人名も分からないかなど



養老川西広板羽目堰



初に渡る西広橋の上流300m、諏訪神社の下あたりが「養老川さいひろいたばめせき西広板羽目堰」(市指定文化財)の

と思ったりした。荒川水系を下り古東京湾に出てはるばる養老川を遡上してやってきに違いないと思うと、いにしへのロマンがかきたてられる。

◇海士有木の石造十三重塔あまありき

さて坂を下り小湊鉄道の踏切をわたると海士有木となる。ようやく国分寺台から抜け出した。古代の遺跡・遺構に偏ってしまったようだが土地柄致しかたないと思っっている。ご了解を願いたい。

市原ICでR297新道に降り武士方面に向かう途中、養老川を最

位置である。灌漑用の木造堰で必要時に組み立てられ何回でも再利用できる。木組はワイヤで連結され、両岸の栈木さんぎをはずすと堰は全部一気に倒壊し溜まった水が一斉に流れ落ちる仕組みである。明治十八年夷隅郡の渡辺某の発明によるという。現在は使われないうが保存会により後継者の育成と伝承がなされている。年一回秋の公開実演を是非見たいものである。

やや離れるが海保地区の海保神社に無形民俗文化財の大塚囃子が伝承されている。数年前になるが市原別院の土曜会で新巻地区の方々によって演じたお囃子を間近で鑑賞したことがある。それは海保の大塚囃子の流れを汲む一派である。出羽三山信仰に基づくもので梵天納めの祭りに演じられたが今はそれと関係なく保存会により場を広げて演じられている。別院では結構動作が派手で勇壮な印象を受けた。



海士有木あまありきは明治初年合併するまで海士村あまむらと有木村ありきむらであった。わみょうしやう『和名抄』の上総国市原郡海部郷あまごうがそれである。中世には海郷あまごうとでてくる。

江戸時代は海士村・武士村・磯谷村いそがやむらは継立場であって役人の通行時に人馬を出すのを慣例としていた。文正二年(1467)、出雲大社を分祀した大宮神社が鎮座する。

小湊鉄道の踏切から近道を通り頭本法華宗・泰安寺に裏門から入る。住職が、皆さんお寺の境内にあると思っって来られるの

ですよと、石造十三重塔（市指定文化財）の場所を教えてくださいました。山門を出て坂を下りたそこも寺域という左側にあった。

高さ3.3m、基壇は相州石、礎石・塔身ともに三州御影石。塔身の上に13枚の笠石これも三州御影である。室町時代の造塔とあった。話に聞く十三重塔とはこれかとしげしげと見上げた。

左右に広がる田園を見ながら国道を南下すれば一キロ半で上総三又駅入り口に至り左折して東へ。ようやく武士が目前に。または福増の集落を経て市西小学校前の静かな道を行くのもいい（少し坂がある）。

◇武士の里が見えてきた

新堀村に入る。上総国市西郡（市指）新堀郷である。寛政四年領主から博奕禁止令が出て向こう三軒



新堀の八幡神社

両隣の連帯責任で厳守せよとのお触れがでた（市原市史研究）。村内はよほどばくちが流行っていたとみえる。集落のはずれに法光寺（日蓮宗）があり先ずお参り。「あまちゃ寺」とあった。寺をでてメインストリート？をのんびり歩

く。これから行く武士でもそうであったが日本の原風景を見る思いでなんとも言えない懐かしさを感じるのであった。通りを抜けた側の村はずれに源頼朝が社殿を寄進したという八幡神社が鎮座。西に眼をやれば広大な田園が養老川を挟んで広がっている。

隣の武士村は新堀から東へ500mもない。市西郡武士村である。古文書によると、「武士」「竹子」「武士」「建市」と出てくる。四種類もの（あぶみかわら）鐙瓦が出土しているので古代寺院があったと想定されている。仮称「武士廃寺」といわれるが未知の部分が多く、若しかして瓦窯跡だけの可能性も考えられるという。集落は周囲が田圃で背後に続く山が北風を遮り家々を守っている地形である。田圃はかなり奥まで作られていた。このような地形を見るとあながち武士廃寺も架空ではないなどと思っ

観音様であ



法泉寺の聖観音菩薩立像  
市原市教育委員会  
「いちばらの文化財」より

た。ほんとは出てくるかも知れない。  
天台宗法泉寺は無住のお寺である。だから残念にも「木造聖観音菩薩立像」「広目天・多門天の二天立像」は拝観出来なかった。ともに市原市指定文化財。観音菩薩は図録で見ると量感を抑えた体形ではあるがふつくとしたお顔立ちで像高81.6cmいちばくづくりの一木造。平安後期の作風という。鎌倉時代建長八年(1256)の銘と「武士郷 観音」の墨書があり確実な年代がわかるものとしては市内最古の仏像である。  
この時代に「武士郷」たけちこうが存在していた証拠となる貴重な史料である。頭には王冠をいただいた

る。

二天像は60.5cmと60.3cmの檜の

いちばくわりはぎづくり

一木割矧造である。十一世紀中期の作(推定)。境内には宝暦十二年(1762)の出羽三山の廻国巡礼塔がある。

法泉寺脇の道路から市原別院裏の「源氏山」が正面に見える。新堀・武士の集落に入っただけの商店を見つけた。のどが渴いたので飲み物を求め女主人の話聞く。若い時からこの村にいたが、あれが「源氏山」と呼ぶようになったのはゴルフ場ができてからでそれまで山に名前などなかった。村の人は誰も山の名は知らなかった、という。2万の千分の一地図の標高96.1mの三角点には山名は記載されていない。「源氏山ゴルフクラブ」の名だけが載っている。この話を聞いて国土地理院の山名・地名や「千葉県地名」を調べたが載っていない。

さらに古地図を調べる必要があるようだが果たしてどうか？

「源氏山ゴルフクラブ」の住所は「市原市大桶字白畑965-1」とある。ネーミングの由来を事務所に訊ねてみた。地元の人には「大桶城跡を源氏山」と呼んでいる。源頼朝が房州に上陸した砦であるという伝承を村人は信じて今もそう呼んでいるとのことであった。源氏山の正体は此処であったのか。地元に敬意を表し名前をいただいたという電話に出た事務所の方は大桶の人らしく誠実に対応してくれた。ゴルフ場の名前の謎は解けた。  
あの山はやはり無名であり、ゴルフ場の名前は山から採ったのではなかった。城跡である源氏山は集落の中の小高い丘ぐらいで極めて限られた区郭の呼称かとも思われる。中世の古城跡と聞くともまた新たな興味が湧いてくるのである。

# 市原別院だより

## 仮本堂、完成間近!

季節がら高温多湿の日々が続く、原っぱの草の成長の早いこと早いこと。



市原に出かけては草刈りに追われる日もあります。先日、広大な原っぱの草刈りをしてきたら、野ウサギの赤ちゃんが出てきたり、ふ化したばかりのキジのヒナが顔を出したりと、自然が豊かです。雑木林には山野草もたくさんありますが、草刈りをしていく住職は、さしづめ



住職の手の中のキジのヒナ【右】と野ウサギの赤ちゃん【左】

「山野僧」とでもいいかしょうか。また、畑には幼稚園

児が植えた枝豆やじゃが芋・サツマイモ・里芋が元気です。月一回のペースで、子どもたちが親子で畑作業のボランティア「Q園隊」に出かけて来てくれます。毎回、百人以上もの親子が土に触れ、自然に触れる貴重な時間を過ごしています。もちろん、幼稚園の活動として子どもたちがやってきて季節ごとのたんけん隊となることもありま

す。そんな、市原別院用地にある作業場兼休憩所のプレハブの半分をリフォームして、四十畳の広間ができました。

外見はプレハブのままですが、床や壁・天井に断熱材を入れ快適になりました。また、



市原別院のプレハブ小屋全景、手前は露天風呂

和風建築に見えるように、つけ柱つけばしらに長押しながおしに長押しという木工事を行いました。大きい空間ですから、柱・長押しながおしがついたことで室内が引き締まりました。(リフォームの匠気分で、悦に入っています。)

これから、正面中央に簡単な須弥壇をしつらえ、ご本尊のお釈迦さまをお迎えしたいと思っています。

正面の窓を開けると雑木林が広がり、春にはウグイス、初夏にはホトトギス、夏は蝉しぐれ、秋には紅葉と、季節を身近に感じられるこの仮本堂で、坐禅会や写経会、市原にお住まいの方のご法事などができるようになればと思っております。



(プレハブ内部) 和風建築に見える広間

# 白杵石仏と高千穂の旅

## ――6月の土曜会

六月五日～七日の二泊三日で、白杵石仏参拝と高千穂・延岡・佐伯・蒲江へと行ってまいりました。参加者二十二人、大分ご出身の幹事さんのお心遣いで、盛りだくさんなところで、残りだくさんなまじりました。

→日本一の炭酸泉「長湯温泉」にて。横断幕は、稲田さんの幼馴染の手作りでした。



↑延岡市の日本一高い「今山大師」



↑佐伯市にある養賢寺は、藩主毛利家の菩提寺であるとともに、臨済宗妙心寺派の専門道場です。接心（坐禅三昧の厳しい期間）中でもあり、拝観謝絶の看板が掲げられていました。



↓蒲江町にある東光寺も、圓福寺と同じ臨済宗妙心寺派で、塩月さんの生家の菩提寺でもあります。

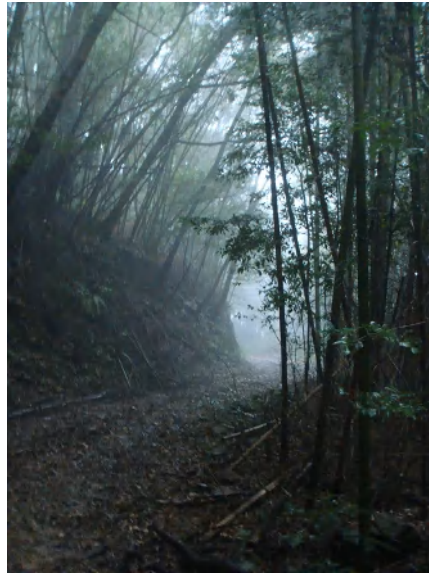


↑白杵市内に残る石畳の古い町並みを散策。石仏だけでなく、歴史を感じさせる町でした。





に身を包み、靴はトレッキングシューズ、手にはストックです。雨の日には、お遍路さんの装束なんて無理。歩きのお遍路さんは、雨が降ったら山男になるのです。【前頁上段の写真】



神峰寺への通路古道。日中ても暗く、一人では心細い。

**晴れなくて幸い**

二日目は、今回のメインコース。旅程もいたってシンプルに、宿を出発・昼食・札所・宿に到着。あとはすべて「歩き」。二十名もの団体なので、多少の時間差が生ずるものと思、距離は少し遠慮して二十四kmほどにしました。安芸市か

ら黒潮洗う海岸線をひたすら西へ西へ。天気が良いければ海もきれいだろうにと、行楽気分なら思うところですが、歩き遍路には日差しに照らされて体力が奪われるよりも曇り空が幸いなのです。二月とはいえ、歩けば大汗なのですから・・・。



天気が良く、田の畔を歩く。ここもへんろ道。

**風が吹いたら、和尚のせい**

雨・曇りと来て、三日目は晴れで、風のある日でした。その昔、ようやく京都の町に臨済宗のお寺を造って良いという許しが出されました。その年

の京都は、大風が吹いたり嵐になったりしたそうです。そんな大風が吹いたりするのは、袖の大きな衣を着た臨済宗の坊さんが京都の街を闊歩し始めたせいだと揶揄されたそうです。

昔の和尚さんたちの弁明をする訳ではありませんが、風が吹くから袖が膨らむのです。【左の写真】

振り返れば、三日間歩きに歩いて、六十キロの大台に乗りました。人間、よい仲間がいて、その気になればできるものだと実感しました。ちなみに圓福寺から直線六十キロは、国立駅や大船駅、鴨川の仁右衛門島・銚子付近・岩井海岸などです。



参加者募集  
約20名

第6回

2巡目

# 四国あるき遍路の旅

- ◆時間があれば行きたい方・・・土日を利用しての二泊三日の旅です。
- ◆まだ遍路に行く年でもないからという方・・・体力のあるうちですよ。
- ◆興味はあるんだけどという方・・・思い立ったが吉日といえます。
- ◆どんな人が一緒なのか不安な方・・・一緒に歩けば、皆、仲間になりますよ。
- ◆体力に自信のない方・・・マイペースで大丈夫。疲れたらタクシーも可。
- ◆わからないことがある方・・・どうぞお問い合わせください。



二巡目の第六回の参加者を募集いたします。

六回目は、高知市内から始まる比較的平坦なへんろ道です。途中に桂浜があったり、清流仁淀川を渡り、横波黒潮ラインへと足を向けます。土佐、修行の道場の中間地点です。

【日程】 十一月二十六日(金)  
～二十八日(日)

【旅程】 飛行機にて高知へ。前回歩き終えたところまでタクシーに分乗して移動。三十二番禅師峰寺参拝後、海岸に沿って西へ。途中、浦戸湾渡船に乗り十三番雪隠寺。門前のへんろ宿泊。二日目は、三十四番と三十五番と参拝し、国民宿舎「土佐」泊。三日目に三十六番青龍寺参拝、時間の許す所まで歩いて、高知龍馬空港から帰路。

【参加費】 約五～六万円を予定

【申込】 お電話・メールなどで、お寺までお申込下さい。

## 土曜会

二月二十日(土)午後三時～  
「精進料理教室」

講師 小山 稔さん

### 御献立

- 一、八方汁の作り方
- 一、飛龍頭 あんかけ
- 一、かぶを使って
- ・田楽
- ・皮の刻み漬け 柚子風味
- ・かぶの葉の煮浸し
- 一、叩き牛蒡 胡麻正油
- 一、蓮根とコシニヤクの 辛子酢味噌和え
- 一、蓮餅と菜の花の吸い物
- 一、五目おこわ







# 第31回花園会ゴルフ大会



5月18日 於：千葉新日本ゴルフ倶楽部

順位		グロス	ハンディ	ネット
優勝	高山 練正	103	30	73
準優勝	宇山 政博	112	36	76
3位	永田 猛	106	29	77
4位	佐藤 美智子	109	32	77
5位	荒井 恒夫	97	19	78

女性の部

順位		グロス	ハンディ	ネット
優勝	佐藤 美智子	109	32	77
準優勝	梅田 道子	117	36	81
3位	佐藤 とも子	109	23	86

三十一回大会は、参加者二十一名、六組で開催されました。成績は、表の通りです。  
参加者の罰金で集められたチャリティの二万五千二百円は、妙心寺おかげさま献金に、寄付させて頂きました。  
次回は、十月十九日（火）に開催予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

## □□境内墓地のご案内

境内の墓地に空きができましたので、ご希望される方がいらっしゃいましたらお申し込みください。

◇募集期間・・・八月末まで  
(応募者が多い場合は、抽選となります。)

◇募集区画・・・二区画

◇区画面積・・・

奥行85cm×幅90cm

◇永代使用料・・・百万円

◇応募資格・・・

圓福寺の檀徒となること。

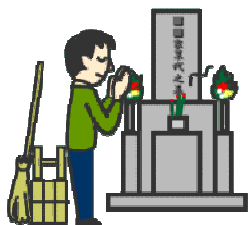
(過去の宗旨・宗派は問いません。)

◇建墓条件・・・

丘カロート式です。

墓石については特に条件はありません。

いつでもご自由  
にご見学ください。  
また、ご不明な点はお寺までお問い合わせください。



## 平成21年度花園会会計報告

平成21年4月1日～平成22年3月31日

	科目	金額	備考
歳入	前年度繰越金	54,477	
	お寺より活動費	1,610,000	
	行事収入	1,775,546	年越し参り、地藏盆・禅童会・土曜会・新年会・写経会・ご詠歌などの参加費を含む
	雑収入	60,331	東京教区からの法話会助成金5年遡及を含め6年分及び預金決算利息
	歳入合計	¥3,500,354	

歳出	宗派賦課金	167,500	本山納付花園会費、災害見舞金ほか
	行事費	2,201,995	年越し参り・地藏盆・禅童会・土曜会・写経会・ご詠歌ほか
	事務費	361,608	事務経費、行事案内状の印刷費、郵送料を含む
	会議費	236,087	月例役員会
	研修費	261,999	役員研修及び霊桃寺法要参列旅費
	慶弔費	115,000	霊桃寺法要、霊桃寺花園会設立25周年ご祝儀ほか
	雑費	0	
	歳出合計	¥3,344,189	
	剰余金	¥156,165	剰余金 ¥156,165は次年度繰越金としました。

平成二十二年上半期  
お寺と和尚の記録抄

1月	1日	新春ご祈禱
	1日～3日	修正会
	17日	花園会新年会
	20日	社会保険センター写経講座
	30日	幼稚園バザー「くすのきまつり」
2月	3日	社会保険センター写経講座
	7日	写経会
	11日～14日	幼稚園、職員研修旅行
	15日	幼稚園、年長組「お茶会」
	17日	社会保険センター写経講座
	20日	土曜会「精進料理教室」
	26日～28日	四国あるき遍路の旅(二巡目の第五回)
3月	3日	社会保険センター写経講座(最終回)
	7日	写経会
	14日	春彼岸法要
	16日	幼稚園、卒園式
	23日	彼岸法話会 布教師 中西 東峰師

3月	24日	取手長禪寺彼岸法要
	26日～28日	冬の寺子屋 於新潟県苗場
4月	4日	写経会
	11日	幼稚園、入園式
	12日	スマートフォン、体験坐禅会
	19日	スマートフォン、体験写経会
	24日～25日	磐田市中泉寺、晋山式
	27日	成田市円通寺、住職津送(本葬)
5月	9日	写経会
	15日	土曜会、市原ボランテラ
	17日	幼稚園、決算監査
	18日	第31回花園会ゴルフ大会、千葉新日本
	5日	東京養源寺、住職結婚式
6月	5日	土曜会、「臼杵石仏と高千穂の旅」
	5日～7日	写経会
	6日	柏井高校野球部、宿泊坐禅
	14日～15日	静岡市宝泰寺、連続法話会
7月	1日	写経会
	4日	初盆・新入檀信徒施餓鬼会
	10日	山門施餓鬼会
	11日	

はじめてのおべんとう

(5月の「園だより」から)

4月も下旬になり一日保育が始まり、同時にお弁当も始まりしました。

入園したての年少さんだったら、お弁当をカバンから出せない子、うまく広げられない子、まして上手に食べるなんて至難の業。お腹が減っているのに食べられずに泣きだす子、機嫌悪くする子など、そんな子どもたちがたくさんだろうと思って、心配になって見に行きました。ところが、みんなお弁当をちゃんと広げて、どの子も散らかして食べている様子はなく、美味しそうに上手に食べていました。



机のまわりを歩きながらお弁当を見せてもらうと、どのお弁当も色彩豊かで、かわいなおにぎりがあった

り、野菜もよく考えられているなあと感心、いいいえ、それ以上に感動すら覚えました。

私の記憶の中で最初のおべん

とうがいつのものだったのか、残念ながら思い出せません。母には申し訳ないのですが、穴川花園幼稚園の子どもたちのように、感動するようなお弁当でなかった事は確かです。でも、良く覚えていたのは、のり巻きです。今でいえば太巻きというやつです。遠足や運動会といった特別な日だけに、母が作ってくれるものでした。具は、かんぴょうと卵焼きとでんぶ。酢飯を作って、海苔の上に薄く延ばして、その上に具を並べるのですが、でんぶが多めに入るかどうか目を凝らして見ていた記憶があります。そんな作る様子まで覚えていたということは、母のそばを離れずに、のり巻きを作る様子を見ていたのだと思います。



ます。

とにかく遠足ではお弁当が楽しみでした。早くのり巻きが食べたいと思っていました。年に数回しか食べられない、特別料理でしたから……。

食に恵まれている現代の子どもたちにとって、いつでも美味しいものが食べられて、ネットでお取り寄せができて、その上お湯を入れたり、レンジでチンするだけの手軽さで食事ができるのですが、親が作ってくれたお弁当はいつまでも記憶に残る大切な味だということは、不変であって欲しいと願っています。

今月は親子遠足があります。

幼稚園の遠足で、親子で食べるお弁当はきつと特別な味として、子どもたちのこころに残ることでしょう。





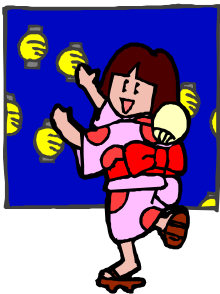
子どもたちのお盆

# 地蔵盆のご案内



8月21日(土)

午後5時	供養受付(本堂にて)
5時半	水子・ペット・人形供養
6時	御霊送り
8時	模擬店閉店・地蔵盆終了



ご供養のご案内

地蔵盆では、水子供養とペットの供養、人形の供養とお焚き上げをしております。供養をなさりたい方は、添付の申込書を送って下さるか、お電話にてお申込下さい。

\*供養料

水子	一霊位	三千元
ペット	一霊	千円
人形	一体	千円

\*供養料は当日の受け付けです。

山岡鉄舟母堂のお地蔵さんにちなんで、毎年開催されている「地蔵盆」も今年で第十八回。昨年は、新型コロナウイルスのため緊急中止となってしまいましたが、今年は八月二十一日に開催予定です。

参道の両側に、「禅重会」に参加した子どもたちが作った灯籠が飾られ、境内のわらべ地蔵たちにお灯明があげて、本堂では、水子供養、ペット・人形の供養。そのお灯明を頂いての「みたま送り」幼稚園児の盆踊りとなります。

織 暑 御 恩 舞

お品書き

手作りの焼きそば、  
 炭火やきとり、山  
 形産玉こんにゃ  
 く、昔なつかしの  
 駄菓子、市原産米  
 のポン菓子の実演  
 販売、冷たい生  
 ビールジュース、  
 こころしずかに野  
 点の一眼、その他